

スイートピー「ピュアクリーム」の最適種子冷蔵期間

1. はじめに

暖地園芸センターでは、冬咲きでクリーム色の花色を持つ高品質多収のスイートピー「ピュアクリーム」を育成し、2008年10月に品種登録しました。スイートピーのハウス栽培では開花促進のために種子の冷蔵処理が行われますが、この処理期間は切り花の品質に影響することが知られています。

そこで、今回「ピュアクリーム」について最適な種子冷蔵期間を検討しましたので紹介します。

2. 試験方法

催芽種子を2℃の暗黒条件下で0、10、15、20、30日間冷蔵し、2006年9月15日にガラス温室に播種しました。栽植密度は、株間20cm、1株1本仕立て、条間40cmの2条植えとしました。最低夜温5℃、自然日長下で栽培し、10月4日に摘心を行いました。また、初期の花蕾は株養成のため適宜除去しました。試験区は1区17株、1反復とし、花柄長、花柄径、着花輪数、開花日、開花節位、収量について調査しました。

3. 試験結果

(1)切り花品質 冷蔵期間の違いは、花柄長、花柄径に対して影響しませんでした(表1)。着花輪数は0日区で6.0輪でしたが、冷蔵期間の長期化に伴い減少し、30日区では3.9輪となりました。10~20日間処理で市場性の高い4~5輪の切り花を収穫できることがわかりました。

表1 種子冷蔵期間の違いが「ピュアクリーム」の開花特性、収量に及ぼす影響

冷蔵期間 (日)	花柄長 (cm)	花柄径 (mm)	着花輪数 (輪/本)	開花日	開花節位 (節)	収量 (本/株)
0	48.3	3.6	6	2/26	47.5	11.4
10	48.7	3.3	5.3	12/30	30.6	24.1
15	50.5	3.4	5.3	12/27	25.8	21.2
20	46.3	3.1	4.6	12/5	16.5	24.1
30	48.1	3.2	3.9	12/4	16.3	24.8

注) 2006年9月15日播種、2006年11月10日から2007年3月29日まで調査

(2)開花時期 開花日は20日区と30日区が12月4~5日と最も早く、開花節位も20日区と30日区が16.3~16.5節と最も低節位であったことから、早期の収穫には20日以上冷蔵が必要でした。

(3)収量 月別収量の比較では、冷蔵期間が長くなると年内の収量が増加する傾向が認められました(図1)。3月までの総収量は、0日区が11.4本、10~30日区が21.2~24.8本であり、10日以上であればほとんど差がありませんでした(表1)。

4. おわりに

以上の結果から、市場性の高い切り花を年内から収穫するための最適種子冷蔵期間は20日間であることが示されました。

本品種は花色がクリーム色であり、カラーリングにも利用できることから、今後、県内生産農家への普及を図っていきたいと思います。

(育種部 小川 大輔)

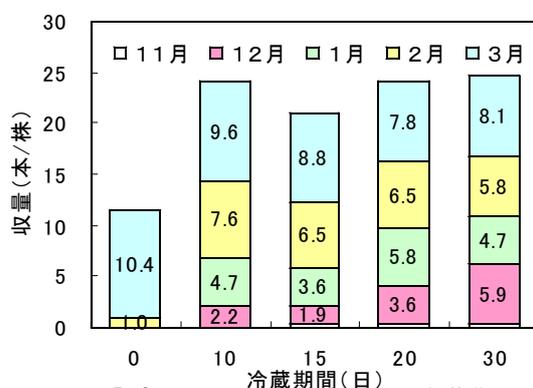


図1 「ピュアクリーム」の種子冷蔵期間と月別収量の関係

和歌山県農林水産総合技術センター
暖地園芸センターニュース No. 34

平成21年1月20日発行

編集・発行 和歌山県農林水産総合技術センター
暖地園芸センター

〒644-0024 和歌山県御坊市塩屋町南塩屋 724

TEL 0738-23-4005

FAX 0738-22-6903

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070109/>

[gaiyou/003/003.htm](http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070109/gaiyou/003/003.htm)

印刷所

(この印刷物は再生紙を使用しております)